



矢野 邦夫 先生

浜松市感染症対策調整監

浜松医療センター感染症管理特別顧問

'81年 名古屋大学医学部卒業。名古屋第二赤十字病院、名古屋大学病院を経て、'89年 フレッドハッチンソン癌研究所、'93年 県西部浜松医療センター（2011年4月より「浜松医療センター」に病院名変更）。'96年 ワシントン州立大学感染症科エイズ臨床・エイズトレーニングセンター臨床研修修了。'97年 感染症内科長／衛生管理室長、'08年 副院長、'20年 院長補佐、'21年4月より現職。

ホームページでも、公開しています。

メディコン CDCWatch

検索

テキサス州西部における麻疹アウトブレイク

2025年1月、テキサス州西部のゲインズ郡で未接種児の麻疹発症が確認され、その後近隣郡を含むアウトブレイク（207人）と発展した。CDCが詳細を報告しているので紹介する（1）。

■アウトブレイクの発生と疫学的背景

- 2025年1月29日、サウスプレーンズ公衆衛生地区はテキサス州保健サービス局の公衆衛生地域1に対し、ニューメキシコ州に隣接するテキサス州ゲインズ郡でワクチン未接種の学童が麻疹を発症したことを報告した。
- 2025年1月29日から2月28日までの調査期間中に、計207人の確定症例（144人の検査確定および63人の疫学的関連症例）が、主に結束の強い多言語コミュニティ内で特定された。
- 症例の約69%に相当する143人はゲインズ郡で発生しており、残りの31%にあたる64人は周辺の8つの郡（テリー、ヨークム、ドーソン、ダラム、マーティン、エクター、ラボック、リン）に及んでいた。
- 麻疹患者の年齢中央値は7歳であり、日齢0日から最高齢57歳まで幅広い年齢層で感染が確認されたが、症例の大半は小児であった。
- 全症例の56%（115人）が女性であり、そのうち妊娠可能な年齢層（15～44歳）の女性22人が含まれ、さらにそのうち2人（10%）が妊娠中であった。
- 調査期間中に採取された348件の臨床検体のうち、106検体（30%）でウイルスの遺伝子型解析が成功し、そのすべてが麻疹ウイルスの遺伝子型D8であることが確認された。
- 今回の流行に関連して、入院を必要とした患者は38人（18%）に達し、2025年2月26日にはワクチン未接種の学童1人が麻疹により死亡した。

■患者の属性とワクチン接種状況の分析

- 居住地別ではゲインズ郡（143人、69%）とテリー郡（35人、17%）で大半を占めていた。
- 年齢層別データでは、5～17歳の学童期が105人（51%）と最も多く、次いで0～4歳の乳幼児が68人（33%）であり、18歳以上の成人層は33人（16%）であった。
- 性別の内訳は女性が115人（56%）、男性が92人（44%）であり、妊娠していた2人の女性は、それぞれ妊娠29週と35週（調査時）であった。
- 入院状況については、全体の18%（38人）が入院治療を必要とした一方で、82%（169人）は入院を要さなかった。
- ワクチン接種状況に関しては、207人のうち97%（201人）が麻疹・ムンプス・風疹混合ワ

人口統計学的特徴、入院状況、ワクチン接種状況別の麻疹患者数と割合 — 西テキサスにおける麻疹流行、2025年1月29日～2月28日

項目	人数 (%)
報告患者数	207 (100)
居住地	
ゲインズ郡	143 (69)
テリー郡	35 (17)
ヨークム郡	9 (4)
ドーソン郡	9 (4)
ダラム郡、マーティン郡、エクター郡、リン郡	11 (5)
年齢区分	
0～4歳	68 (33)
5～17歳	105 (51)
18歳以上	33 (16)
不明	1 (1)
性別	
女性	115 (56)
妊娠中（15～44歳女性22人中）	2 (9)
男性	92 (44)
入院状況	
入院	38 (18)
非入院	169 (82)
MMRワクチン接種歴	
未接種または接種歴不明 ¹	201 (97)
1回接種 ²	2 (1)
2回以上接種 ³	4 (2)

略語：MMR＝麻疹、ムンプス、風疹

- * これらの郡はいずれも症例数が5人未満であったため、個人特定を避ける目的で統合した。
- † 妊娠週数は29週と35週であった。
- § テキサス州予防接種登録制度では、登録には本人または保護者の明示的同意を要する（オプトイン方式）ため、未接種者と接種状況不明者を区別することはできなかった。接種状況不明者には、MMRワクチン接種を受けたと報告したが接種状況を確認できなかった者、およびMMRワクチン接種の有無を思い出せなかった者が含まれる。未接種者には、症状発現の14日以上前にMMRワクチンの接種記録がない者が含まれる。
- ¶ 入手可能な情報のレビューによると、これらの人々は症状発現の14日以上前、または入手可能な最良の代替日（発疹の日付が不明な場合は、症状発現日、検体採取日、入院日、または地域への報告日のいずれかをこの順序で使用）より前に、年齢に応じたMMRワクチンを1回以上接種していたことが示された。

クチン（MMRワクチン）の接種記録がないか、あるいは接種状況が不明であった。

- MMRワクチンを少なくとも1回以上接種していたことが文書で確認された症例は、全症例の中でわずか3%（6人）に過ぎず、その内訳は1回接種が2人、2回以上接種が4人であった。
- テキサス州の予防接種登録制度は法律で同意が必要なオプトイン方式であるため、未接種者と接種状況不明者を厳密に区別することは困難であった。
- ワクチン未接種の定義には、症状発現の14日以上前にMMRワクチンの接種記録がない者が含まれ、不明には接種したと回答したが証明できない者が含まれている。

■公衆衛生上の介入戦略とその成果

- 当局は、麻疹の疾病特性や予防戦略に関する情報を、学校の看護師や保護者向けに多言語で作成し、地域の文化的背景やコミュニティ特性に配慮した形で地域に配布した。
- CDCはこれらの啓発資料に関連する言語へ翻訳する作業を支援し、ワクチンの重要性と症状の早期認識に重点を置いた公衆衛生教育を1月29日から2月28日の期間に実施した。
- 持続的な伝播が確認された郡では、生後6–11ヶ月の乳児に対するMMRワクチンの早期接種や、1回のみ接種済みの成人に対する2回目の接種が推奨された。
- テキサス州保健サービス局の公衆衛生地域1において、生後6ヶ月以上の全住民を対象とした33箇所のMMRワクチン接種クリニックと、16箇所の麻疹検査クリニックが開設された。
- これらの広範な取り組みにもかかわらず、地域住民のワクチンに対する受容性は低く、期間中に接種されたMMRワクチンはわずか約275回分に留まった。
- 学校内での感染拡大を抑制するため、テキサス州法に基づきワクチン接種または免疫保有が確認できない学生に対し曝露から21日間の登校自粛を勧告するガイドラインが提示された。
- ただし、無認可の私立学校やホームスクーリングの小児はこの登校自粛方針の対象外となる可能性があり、これが学校を拠点とした持続的な伝播の一因となるリスクが指摘された。

■現場における調査の障壁と地域社会の特性

- 症例調査において、多くの住民が世帯員や接触者の名前、具体的な曝露場所などの情報提供を拒否したため、曝露評価やフォローアップが著しく困難な状況であった。
- 地域社会には、外部機関からの独立性を維持し、問題の解決をコミュニティ内部に求めるという強い文化的背景があり、当局や医療システムに距離を置いていた。
- このような外部との関わりを避ける傾向が、標準的な麻疹管理措置の実施を複雑にし、疫学調査の進行を妨げ、報告されなかった症例が存在した可能性がある。
- 地域住民の視点をより深く理解するため、当局は信頼されているコミュニティの重要人物と連絡を取り、文化的に適切な介入方法の模索を続けた。
- 国際的な麻疹ワクチンの接種率低下は、今回のような接種率が低く結束の強い米国内のコミュニティにおいて、大規模なアウトブレイクが発生するリスクを増大させている。

■最終的な流行規模と今後の展望

- このテキサス州の流行は2025年8月18日に終息が宣言されたが、最終的な確定症例数は762人、入院数は99人、そして死者は計2人にまで拡大した。
- 感染源は不明のままであるが、過去の事例では海外からの輸入症例が、ワクチン接種率の低い結束の強い米国内コミュニティでの流行と関連していることが示唆されている。
- 麻疹ウイルスの感染拡大を防ぐために最も効果的な介入策は、依然として2回のMMRワクチン接種による高い集団免疫レベルを維持することである。
- 初期対応においては、地域の信頼を得ている人物と連携し、文化的な文脈に沿った教育資料を開発することが、公衆衛生介入を支援する教育資料の開発に役立つ可能性がある。
- 介入が困難なコミュニティにおいては、麻疹が疑われる人に対して感染拡大防止のために他者との接触を避けてもらえるよう助言することや迅速な医療機関の受診を促すなど、標準的な対策を補完するメッセージの発信が標準的な対策を補完する可能性がある。
- 本報告は、ワクチン接種や検査、公衆衛生教育を推進する上で、地域社会との信頼関係や文化的背景への配慮が重要な課題となることを示している。

[文献]

1. Crisp CA, Milton S, Lutz CS, et al. Notes from the Field: Initial Public Health Response to a Measles Outbreak in a Close-Knit West Texas Community — January–February 2025. MMWR Morb Mortal Wkly Rep 2026;75:300–302. DOI: <http://dx.doi.org/10.15585/mmwr.mm7523a2>. <https://www.cdc.gov/mmwr/volumes/75/wr/pdfs/mm7523a2-H.pdf>

株式会社メディコン
カスタマーサービス www.bdj.co.jp/s/cs/

bd.com/jp/

BD, the BD Logo and all other trademarks are trademarks of Becton, Dickinson and Company or its affiliates.
© 2026 BD. All rights reserved.